

発行日 2008年1月15日  
 発行： 盲人情報文化センター 録音製作係  
 〒542-0071 大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号  
 道頓堀千鳥ビル  
 電話06-6211-0910(録音製作)

## 「読み癖」について

久保 洋子

前回書きました、内容が正しく伝わる読み、長い間聞いても疲れな読みについてもう少し考えてみたいと思います。

正しく伝えるためにはアクセント、文の切り方、立て方など気をつけなければならないことは沢山ありますが、それとは別に読み癖についても注意しなければなりません。

文意に関係なく、自分の息の長さで短く切って読む癖、音の上がり下がりによって一定の癖があり、節がついているように聞こえるなど、癖は色々ありますが、本人には中々わかりにくいものです。

一方、校正者は読みについては気がついて指摘しにくいものです。切り方、立て方が不適切で文意が伝わらないのは誤読ですから当然指摘しますが、節がついて聞こえるような読みについて

はどうでしょうか？ こういう場合、聞いていると節ばかり耳について内容は中々伝わってきません。読みの癖ですから全体にわたって、指摘して訂正してもらうという事もできません。校正していて読みが気になったら是非一度職員に相談してください。現在、「読みの講座」（いわゆる「朗読」）もいくつか開かれています。講師の先生に聞いていただいて指導していただくことも可能です。

又、音声訳者の側でも指摘を受けたら専門家の意見を聞いてみてください。機会は館で用意してもらえます。

折角志してはじめた音声訳です。本の内容を正確に伝えられる読みを目指して、音声訳も校正者も力を合わせて努力して行きたいと願っています。

### 『自宅録音チーム』勉強会

12日(火) 『マトリョーシカ』 10時～12時  
 20日(水) 『はなみずき』 1時半～3時半  
 28日(木) 『二十四の瞳』 10時～12時

### 『プライベートチーム定例勉強会』

13日(水) 1時半～3時  
 27日(水) 10時～12時 修了生ケア

### 『スタジオ曜日別チーム』勉強会

25日(月) 『月曜チーム』  
 26日(火) 『火曜チーム』  
 27日(水) 『水曜チーム』  
 28日(木) 『木曜チーム』  
 15日(金) 『金曜チーム』  
 23日(土) 『土曜チーム』

一月  
録音製作予定表

### 『専門図書音訳チーム』勉強会

15日(金) 『東洋医学チーム』 3時～5時  
 9日(土) 『古典チーム』 1時～3時  
 29日(金) 『英語チーム』 10時半～3時  
 23日(土) 『パソコンチーム』 1時半～4時  
 『理数チーム』 お休み

### 『橋本勝利のフォローアップ講座』

8日(金) 1時～3時  
 13日(水) 1時～3時

### 『2008年 音訳基礎講習会 (全15回)』

※3月4日(火)スタート 午前10時～12時

## 校正について 第4回

# デジ書凡例

大林 緑

### 「録音の順序」

デジ書の場合、検索や移動が簡単にできる為に、デジ書の作り方をあらかじめコメントしておくことで、より便利に活用することが出来ます。その為に以下のようなコメントをします。コメントは全体の構成が利用者にはまだわからない段階でおこないますので、簡潔でわかりやすい言い方を工夫します。

### デジ書凡例で断る事項

- 1) 何階層まであるか
- 2) 目次が原本にない場合
- 3) 図、表、写真、目次のない小項目、注などにグループを使用した場合
- 4) 検索しやすいように配慮した場合
- 5) その他必要なコメント

### 『デジ書凡例の例』

#### 1) 何階層まであるか

◎目次の階層とデジ書のレベルが同じ場合

例『この図書の階層はレベル〇まであります』

\*レベルが1の場合は、

例『この図書の階層はレベル1です』

→「まであります」は言わない。

◎目次の階層とデジ書のレベルが違う場合

例『この図書の階層はレベル2まであります。レベル2は目次のない小項目です。』

#### 2) 目次が原本にない場合

例『この図書には目次はありません。本文の項目をレベル1で区切っています』

\*項目などが無くて、記号(※ ☆ …)空白などで区切る時はそのコメントを入れます。

3) 図、表、写真、目次のない小項目、注などにグループを使用した場合

例『 (図、表、写真、) のはじめと終わりをグループで区切っています』

4) 検索しやすいように配慮した場合

5) その他必要なコメント

その他原本によって必要なコメントがあれば入れます。

### (校正のポイント)

デジ書凡例は編集の前では、まだ仮の形で入っています。

デジ書凡例のコメントは最終的に編集者がまとめ、音声訳者に録音を依頼します。

デジ書凡例は編集した作り方のコメントと共に、そのあとに録音図書凡例にあたる、原本に必要なコメントも入れます。これは「録音の順序」5) その他必要なコメント、にあたります。このコメントは目次の前であり、内容に踏み込まない全体の構成などを考えて入れます。あらかじめ音声訳者が事前に検討して録音しています。デジ書の凡例、録音図書の凡例とも、校正の立場でも聞いてよく考えて下さい。

◎階層は適切ですか？

◎デジ書凡例の読み方は上記の「録音の順序」の中の「デジ書凡例の例」と合っていますか？

◎録音図書の凡例は必要な凡例が簡潔な言葉で入っていますか？

目次の前に聞いても分かりますか？

今回は「目次」です。

## 専門図書音訳チーム 理数チーム

1992年第一回の講習があり、終了後チームとして発足しました。以来、科学全般という漠然とした幅広い対象を相手に、音声訳に取り組んできました。メンバーもライトハウスの他、奈良、神戸をはじめ近畿一円から集まっており、出来るだけ共通の認識を持てる様、心掛けてまいりました。

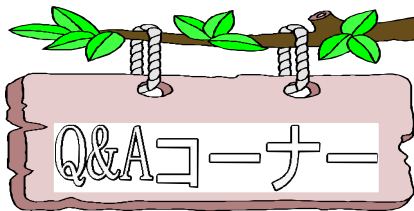
今までに読んだものを拾ってみますと、『科学ライブラリーシリーズ』『NHK趣味の園芸シリーズ』『週刊メディファイル』『雑誌子どもの科学』



『雑誌サイエンスウェブ』等があります。

最近では『妊娠と出産』『新しい高校教科書を目指した地学・生物・化学・物理』の各本を読んでいます。

これからも、理数と云っても余り専門的なものばかりでなく、我々の直ぐ身近にある話、最新のトピックスの様な事を、分かり易く楽しく聞いて頂けたらと願っております。(多田裕子)



### Q

PRS-プロで録音しています。「MP3 32kbps」で録音していますが、利用者から「訂正まえの音が残っている」といわれました。どうしてそんなことがおこるのでしょうか？

### A

PRS-プロで録音する場合、「PCM 22.05kHz」で録音している場合は、ビルドブックすると、削除したり移動したりしたデータはきれいに整理され、前のデータが残っているといった事はおこりません。しかし、最初から「MP3」で録音している場合は、ビルドブックしても、表向きは、訂正前のデータなどは消えています。実際にはデータはまだそのまま残っています。プレクストークで再生しても削除したデータが聞こえてくる事はありません。しかし、利用者が、「MP3」が再生できる市販のCDプレーヤーなどで聞くと、削除したデータも再生されてしまいます。特に、最近、デジター図書を「MP3」が再生できる携帯用の録音機などにコピーして聞く

人も増えているようです。こうしたことを無くすには、「音声エクスポート」をすることで解決します。

「PCM 22.05kHz」で録音している場合も、最終的にCDに焼くときには「MP3 32kbps」にデータを圧縮して焼き付けますが、その時も「音声エクスポート」で「PCM」から「MP3」にデータを変換します。

また、データを結合して1フレーズにしたとき、「結合できません」と表示されることがあります。これは画面上では隣り合っているように見えるデータでも、実際のデータは別々の場所にあるからです。1フレーズにしたときには、一旦「音声エクスポート」する必要があります。

各種講座のお知らせ

**2008年  
初心者音声訳講習生受付中**

**講習会実施時期**

- 第1期生 2008年4月7日(月)  
～6月2日(月)  
第2期生 2008年7月7日(月)  
～9月1日(月)  
第3期生 2008年10月6日(月)  
～12月15日(月)  
第4期生 2009年1月19日(月)  
～3月9日(月)

いずれも 13:00～15:00

参加費は3000円(全8回分・資料代)

※この講習は、どなたでも受講できるように、受付は先着順、選考試験などは行っていません。実際に録音図書を作るには下記の講座を受けていただきます。

**2008年 第1期  
「音声訳基礎講習会」受付中**

3月4日(火)10時～12時スタートの「音声訳基礎講習会」(選考試験有り)の実施要項が来ています。受講希望者は係までご連絡ください。メール、電話、ファックスなどで申し込むことができます。

尚、「音声訳基礎講習会」は年2回実施します。

2008年は、

- 第1期は、3月～6月(毎週火曜)、  
第2期は、9月～12月(曜日は未定)の予定です。

メールアドレス rec@iccb.jp  
録音製作直電話 06-6211-0910  
FAX(代表) 06-6211-1590

係からのお知らせ

パソコンでの校正が可能な方は、係までご連絡下さい。

カセットではなくCDR/CDR-Wにコピーしたものを

パソコンで校正する人も増えています。カセットの場合は、一旦、MOにデータをコピーして、MOからさらにカセットにコピーしますが、CDの場合は、CDにコピーしたらそれをそのまま渡せます。

自宅校正者でパソコンで校正が可能な方は係までお申し出下さい。

今後、CD校正が可能な人の一覧を発表しますので、この方達への校正依頼はCDで行ってください。

**スタジオを移動して録音したら、帰りは元に戻すよう連絡をしてからお帰り下さい。**

最近、スタジオを移動して録音したあとそのままになって後で混乱しているケースが増えています。所定のスタジオではなく移動した場合は帰りに録音したデータを所定のスタジオに戻すように依頼してから帰るようにしてください。

混乱ケース

- ・いろいろ移動していて、どこで訂正作業をしたのかわからなくなる。
- ・完成したデータではなく途中のデータを校正依頼に出す

**編集後記**

年明けて、オーストラリアのパースへ行ってきました。市内を走るバスは路線ごとにバスの色が違い、バス停にはそれぞれ番号が良く見えるように付いていました。市内はだれが乗っても無料。同じ色のバスに乗れば必ず元の所に帰って来れるので、言葉が通じなくても安心(?)して乗れます。色分けでは、たまたま、シンガポールの空港も、3つのターミナルに敷き詰められた絨毯は色や柄で分けてありました。日本でも、廊下に赤や黄色などの線がいろいろ引いてある病院があったのを思い出しましたが、言葉や文字がわからない国に行ったことで、日本では気にもとめていなかった「色」「数字」の役割を実感してきた次第です。録音図書でも音声訳者が適切な数字をふることで安心して聞いていけます。聞き手に優しい録音図書を作りを目指していかなくてはと改めて思いました。(K.S)